

研究テーマ「体育学習から教育の現代的課題にせまる」

サブテーマ —友だちと関わり合い、ともに高め合いながら運動を楽しもうとする姿を求めて—

(1) テーマ設定の理由

2008年3月、新学習指導要領が示された。現行の指導要領のキーワードである「生きる力」をとらえ直し、「自ら学び、自ら考える」こと、つまり学ぶ力・学び方の学習が重視され、実生活に活かしていくという、生涯学習の基礎的な資質を育もうとする意図がみられる。

これまで体育学習は、プレイ性(自発性)を基盤としながら、スポーツの中で繰り広げられる小学生なりの人間としての生き方を学習の内容とし、クオリティ・オブ・ライフ(生活の質的向上)に向けた学習を展開してきた。生涯スポーツを志向して余暇活動の文化性を教育していこうとするところに教科としての重要な意義を求めようとしてきたのである。

また体育学習は座学の教科とは異なり、他者と交流しながら身体活動を行うため唯一の行動教科としての存在意義がある。勝負をめぐる葛藤場面があったり本能的な言語表出が自然発生したりするため、現代の行動現象を起こす様々な教育に関わる問題を直接的・間接的に研究していくにふさわしい教科といえるだろう。

よって、好ましい競争心・欲求の方向性・人間関係・価値観・心根・寛容さ・倫理性・自制心・思いやり・責任感・問題解決能力など、より人間らしく社会の中で共に生きていくための資質・素養・教養といったものを体育学習の中でどのように捉え、学習の内容としていくかについて問い続けていくことが肝要であると考えている。

教育の現代的課題と照らし合わせながら、本校の子どもにもその原初的傾向や問題(自己中心的な行動、会話による表現力の欠如、受動的な学習態度等)が潜んでいるという認識をもち、子どもたちの在りよう(心根、判断基準、価値観、行動意識)を正面から捉えていきたい。そして、教科体育の特性を大事にしながら、体育が果たしてきた役割、果たすべき役割というものに再検討を加え、体育学習において本校の児童をいかに変えるのか、いかに変えていかなければならないのかを研究していこうとするものである。